

基幹科目・教養科目・実務系科目

科目名	キリスト教人間学 I		担当者	浦野、ボネット、井手、リズ	
コース・学年	1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>カリタス女子短期大学は、その建学精神であるキリスト教的な人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしています。まず、自己を知り、自分の成長に真摯に取り組み、他者とのかかわりを大切に、社会の中で生きる自分の考察力・判断力を備えることを目指します。更に超越的価値にも目を開きつつ、世界的な視野に立って、より人間的な世界を築きあげることを探って行きます。</p>				
授業の準備について	内容に応じて、必要な小課題、聖書通読など。				
授業内容					
1	導入・フォーカシング	1	学外研修（静会 1）		
2	カリタス女子短期大学教育理念	2	学外研修（静会 1）		
3	自己認識とアイデンティティ	3	学外研修（静会 1）		
4	自分の成長とライフサイクル	4	学外研修（静会 1）		
5	他者との関わり、コミュニケーション	5	学外研修（静会 1）		
6	他者との関わりとの進展	6	導入・フォーカシング		
7	全学講演会	7	創立記念クラス		
8	社会における人間の尊厳と権利	8	特別講義		
9	世界人としての人間	9	クリスマスへの導入とその精神		
10	単元のまとめ	10	クリスマスの歴史、文化背景		
11	自然環境問題	11	カリタスの精神とクリスマス		
12	生命のはじまりと尊厳	12	クリスマスと奉仕活動		
13	死に関わる諸問題	13	クリスマス会		
14	総括	14	総括		
15	前期のまとめ	15	1年のまとめ		
教科書	『新約聖書』（フランシスコ会聖書研究所訳注）サンパウロ社、または『聖書 旧約聖書続編つき』（新共同訳）日本聖書協会を推薦。キリスト教の聖書である限りどの聖書でもかまいません。				
評価方法	授業参加度 40%、期末試験 50%、小レポートその他 10%を総合して評価。				
特記事項	キリスト教に関する背景がなくても問題なく受講できる体制が準備されております。安心して受講してください。人生における重要な事柄に触れる領域を扱います。頭はもとより身体と心を使う科目です。				

科目名	キリスト教人間学 II イエス・キリストの人間観		担当者	ボネット ビセンテ	
コース・学年	2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>イエス・キリストの言行、その生き方と死に方は国々の国境と時代を越えて、数多くの人々に深い影響を及ぼした。今もなおその言行に現れる宗教観と人間観は、全世界でもっとも弱い立場に追いやられている人々、貧しい人、難民、移民、障害者、HIVとその他の患者などのために活躍しているたくさんの人々のインスピレーションとなっています。</p> <p>この科目の内容を通して学生は、イエス・キリストの言行にふれ、生きるための新たな原動力を得、自分の生き方、どういう人間でありたいかを考え、自ら選ぶための参考にすることを目的とする。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	導入・フォーカシング	1	導入・フォーカシング		
2	宗教と宗教団体。その関係と違い	2	学長特別講義		
3	聖書とユダヤ教	3	罪とゆるし		
4	イエス時代のパレスチナ	4	イエスと女性		
5	イエスは伝えた「父なる神」Ⅰ	5	「死の文化」と「いのちの文化」		
6	イエスは伝えた「父なる神」Ⅱ	6	イエスの人間観のまとめ		
7	いやしの話	7	イエスの宗教観のまとめ		
8	冷淡のたとえ話	8	キリスト教人間学 II のまとめ		
9	連帯と分かち合いの例	9	クリスマスへの導入・その精神		
10	全学講演会	10	クリスマスと奉仕活動		
11	鈍感さと敏感さの話	11	カリタスの精神とクリスマス		
12	「決まり」と人間のいのちⅠ	12	クリスマスと愛の精神		
13	「決まり」と人間のいのちⅡ	13	クリスマス会		
14	「タラントン」のたとえ	14	2年間の総括		
15	前期のまとめ	15	卒業ミサ・感謝の集い		
教科書	教科書ではありませんが、聖書をつかいます				
評価方法	各授業のリアクションペーパー、レポートの内容などによって成績が決まる				
特記事項	特になし				

科目名	キリスト教人間学 II 軟らかい聖書入門		担当者	浦野 洋司	
コース・学年	2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>「たった1冊の本」だけ持参するのを許されるとしたら何の本にするでしょうか。この条件で、多くの人が世界のベストセラーと言われる聖書を挙げるかも知れません。聖書はキリスト教化した社会に深い影響を及ぼし、言葉だけでなく、諺をはじめ、メンタリティ、生活スタイルにまでその文化に深い影響を残しました。本講の「軟らかい」とは・・・キリスト・イエスがまず「優しい御父」を私たちに紹介したことに基づく表現です。また、「固い」こと、あまり難しいことは避け、楽しいクラスを目指したいと思います。基本的な言葉や神話、気候と聖書を生み出した文化の特徴をマスターした上で、旧約と新約の代表的なやさしい箇所のテキストに触れて行きます。新旧約聖書の総合的な理解を目的とします。</p>				
授業の準備について	特になし				
授業内容					
1	導入・フォーカシング	1	導入・フォーカシング		
2	ことば・名前・数・文字の不思議	2	詩編入門・詩編を読む①		
3	聖書の環境・正典・聖書誕生・日本語聖書等	3	詩編を読む②		
4	旧約聖書入門・「神話」と「科学」他	4	ルカによる福音書①		
5	創世記を読む①	5	ルカによる福音書②		
6	創世記を読む②	6	ルカによる福音書③		
7	創世記を読む③	7	後期のまとめ		
8	新約聖書入門・歴史上のイエス、真実の姿	8	学長特別講義		
9	マタイによる福音書①	9	クリスマスへの導入・その精神		
10	全学講演会	10	クリスマスと奉仕活動		
11	マタイによる福音書②	11	カリタスの精神とクリスマス		
12	マルコによる福音書①	12	クリスマスと愛の精神		
13	マルコによる福音書②	13	クリスマス会		
14	マルコによる福音書③	14	2年間の総括		
15	前期まとめ	15	卒業ミサ・感謝の集い		
教科書	キリスト教人間学 I と同じ新約聖書を使用します。				
評価方法	授業参加度 40%、平常点としてクラス内小レポートなど 60%を総合して評価します。				
特記事項	特になし				

科目名	キリスト教人間学Ⅱ		担当者	リーズ ラミ	
コース・学年	2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生が自分自身を意識する事によって、自己を発見し、生きる力を見出す。 ・ 自己をよりよく理解するため、日々の生活を意識的に過ごすことの大切さを学ぶ。 ・ 四福音書に親しみ、福音の価値観を学ぶ。 				
授業の準備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人作業のプリントを使って、自分を見つめさせる。 ・ 各授業で、テーマに合わせて新約聖書の箇所を取り上げる。 ・ 別紙の通りの資料を用いる。 				
授業内容					
1	導入・フォーカシング（合同）	1	導入・フォーカシング（合同）		
2	人間の存在	2	愛（４種類）		
3	自分の存在	3	小さい人々と共感する心①		
4	自分と他者	4	小さい人々と共感する心②		
5	人間関係の中の自分	5	自分の死生観		
6	神から創られた人間（体と魂）	6	命のまとめ		
7	自分の価値観（日常生活の中で大切にしていること）	7	テスト		
8	自分のスピリチュアルの次元	8	学長特別講義		
9	自分の poly-poster	9	クリスマスへの導入・その精神		
10	全学講演会	10	クリスマスと奉仕活動		
11	見える生命	11	カリタスの精神とクリスマス		
12	見えない生命	12	クリスマスと愛の精神		
13	人生について①	13	クリスマス会		
14	人生について②	14	2年間の総括		
15	まとめ	15	卒業ミサ・感謝の集い		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新約聖書、聖書思想辞典、口語訳聖書のコンコルダンス ・ 緩和ケアのためのカンフェランス資料 ・ 人間の成長（Erikson）、自己表現～ピラミッド～（Maslow） 				
評価方法	授業参加度 50%、発表 20%、レポート 30%を総合して評価します。				
特記事項					

科目名	キリスト教人間学Ⅱ		担当者	久守 妙子	
コース・学年	2年	必・選	必選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>テーマ「芸術に込められた聖書思想」</p> <p>芸術を考える時、大事なことはそれを支える「人間」を思いめぐらすことです。美術、音楽、建築等は人間の心、考え方を表しています。キリスト教とかかわりの深い西洋絵画、建築を中心にいたします。</p> <p>すでに皆さんが見たことがある作品、これから出会う作品に込められた聖書思想・詩想に触れて現代の私たちの生き方を探ります。</p> <p>実際に新旧聖書を開きながら授業を進めます。</p>				
授業の準備について	<p>日頃、聖書、絵画に親しみましょう。</p> <p>毎回授業の為、各自セミナー室にある聖書を持ち出し終了後セミナー室に戻しましょう。</p>				
授業内容					
1	導入・フォーカシング	1	ゴシック建築		
2	芸術とキリスト教	2	ルネサンス建築		
3	聖書の成立、構成、背景	3	バロック建築		
4	絵画と旧約聖書 1	4	日本の教会建築とフランシスコ・ザベリオ		
5	絵画と旧約聖書 2	5	キリストの降誕の絵画 1 演習		
6	絵画と旧約聖書 3	6	キリストの降誕の絵画 2 演習		
7	絵画と新約聖書 1	7	キリストの降誕の絵画 3 演習		
8	絵画と新約聖書 2	8	学長特別講義		
9	絵画と新約聖書 3	9	クリスマスへの導入・その精神		
10	全学講演会（合同）	10	クリスマスと奉仕活動		
11	キリストの受難と復活 1 演習	11	カリタスの精神とクリスマス		
12	キリストの受難と復活 2 演習	12	クリスマスと愛の精神		
13	キリストの受難と復活 3 演習	13	クリスマス会		
14	キリスト教古代教会と芸術	14	2年間の総括		
15	ロマネスク建築	15	卒業ミサ・感謝の集い		
教科書	セミナー室に備えてある聖書を使用します。				
評価方法	授業参加度（レアクションペーパー、レポート及び発表等を含む）を総合して評価します				
特記事項	実際に聖書に触れ、作品を映像で見たりしますので出席を重視します。				

科目名	日本語基礎			担当者	井筒 満 稲垣 智花 小林 美恵子
コース・学年	1年	必・選	必	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>様々な学問分野・外国語などを学び、その理解を確かなものにしていくためには、基礎的な日本語力が必要です。基礎的な日本語力とは、①文章の特徴に応じて、その内容を的確に読み取ることができる力であり、②いろいろな課題に応じて、わかりやすく説得力のある文章が書ける力です。この授業の目的は、そのような日本語の基礎力を養成していくことにあります。また、①②とともに、③漢字検定試験に合格できるような漢字や国語常識の知識も小テストなどによって身につけていきます。</p>				
授業の準備について	<p>授業で提示された課題は、必ず提出し添削を受けること。自分で課題に取り組んだ上で、解答例に関する解説を聞かないと、日本語力は身につけません。また、漢字試験も、出題範囲を必ず予習したうえで受験すること。</p>				
授業内容					
1	授業の目的・授業計画の説明	1	手紙文を書く①		
2	わかりやすい文章を書く基礎技術の概要①	2	手紙文を書く②		
3	わかりやすい文章を書く基礎技術の概要②	3	映像を見てノートを取り、その内容を文章化する①		
4	<概要→詳細→まとめ>①	4	映像を見てノートを取り、その内容を文章化する②		
5	<概要→詳細→まとめ>②	5	小論文を書く①（構成）		
6	<概要→詳細→まとめ>③	6	小論文を書く②（データ・理由づけ・主張）		
7	新聞記事・ルポの文章－事実と意見①	7	文章の縮約・要約・アウトラインの抽出①		
8	新聞記事・ルポの文章－事実と意見②	8	文章の縮約・要約・アウトラインの抽出②		
9	対象のイメージを描写する①	9	ブックレポートを書く①		
10	対象のイメージを描写する②	10	ブックレポートを書く②		
11	仕事の手順や道順を説明する①	11	エントリーシート・自己アピールを書く①		
12	仕事の手順や道順を説明する②	12	エントリーシート・自己アピールを書く②		
13	相手を配慮して助言を書く①	13	志望動機文を書く①		
14	相手を配慮して助言を書く②	14	志望動機文を書く②		
15	まとめ	15	まとめ		
教科書	藤沢 晃治『「わかりやすい文章」の技術』（講談社） 日本漢字教育振興会編『2級漢字学習ステップ』（三省堂）				
評価方法	出席30% 平常点30% 期末テスト40%				
特記事項					

科目名	言語文化演習			担当者	北川、稲葉、伊藤、前田、北脇、小林、
コース・学年	1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>言語文化演習は、短大二年間を通して学生に課されるレポート、及び授業での発表に関して、その基本事項を学ぶことが第一の目的である。</p> <p>先ず、指定された一つのテキストを題材に、個別、或いはグループに分かれてテーマを決め、テキストを多様なテーマから眺め、それら抽出されたテーマに関する調査を基に発表を行う。発表に至るまでの資料検索の方法（図書館利用法、インターネット検索、文献目録の読み方など）を習得すること。次に、発表に関して皆で討論を行い、新たな問題系へとテーマを広げてけるよう担当者が指導する。</p> <p>授業を通じて調べた材料を基に、期末レポートを作成するが、レポート作成に際してのノウハウも学ぶ。</p> <p>この授業は、専門的な知識を要求するものではなく、その知識を深めるための近道となる基本的な方法を学ぶ場である。</p>				
授業の準備について	指定された教科書を熟読すること。関連する文献を探し、発表の準備をすること。				
授業内容					
1	イントロダクションーこの授業の目的、図書館案内				
2	様々な検索方法ー文献目録、インターネット検索などー				
3	発表に際してーその基本的手順ー				
4	テキストの読み方ーテーマの選択ー				
5	発表と討論				
6	発表と討論				
7	発表と討論				
8	発表と討論				
9	発表と討論				
10	発表と討論				
11	発表と討論				
12	発表と討論				
13	レポート作成（1）ー形式的ノウハウなどー				
14	レポート作成（2）ー内容の整理ー				
15	まとめ				
教科書	担当者指定の教科書（教室で別途指示）				
評価方法	発表（討論での発言含む） 50%、レポート 50%				
特記事項					

科目名	コンピュータ入門		担当者	北脇 実千代	
コース・学年	1 - 2年	必・選	必選	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>コンピュータの概念を知り、ワープロソフト（ワード）の基本操作をマスターすることを目指します。日本文・英文の入力操作を学び、繰り返し練習することによって、入力スピードを上げていくことも目的とします。さらに、ビジネス文書の作成に必要な操作も学んでいきます。</p>				
授業の準備について	日頃から積極的にタイピングの練習をしましょう。				
授業内容					
1	コンピュータの概念				
2	パソコン周辺機器の名称と使い方				
3	MS-IME の使い方				
4	キーボード入力操作（ホームポジションの確認とタイピング練習）				
5	タイプ練習ソフトの使い方				
6	英文スピード入力				
7	和文スピード入力 1				
8	和文スピード入力 2				
9	印刷の仕方				
10	書式設定について				
11	ビジネス文書作成 1				
12	表の作成				
13	ビジネス文書作成 2				
14	縦書き文書について				
15	全体のまとめ				
教科書	機能ごとに STEP UP ! Office ソフトで作る文書ドリル全 5 5 題 NOA 出版				
評価方法	定期試験 8 0 %、課題 2 0 %				
特記事項	コンピュータ初級者のための科目です。前期に他のコンピュータ科目の単位を取得した学生は後期は履修できませんので注意してください。				

科目名	コンピュータ概論		担当者	山澤 浩司・岡田 昇	
コース・学年	1－2年	必・選	必選	期間・単位数	前期または後期・2
授業の目標	<p>コンピュータの仕組みを理解すること。文書作成における技能の習得すること。 ソフト・ハードの役割からコンピュータの設定の仕方を行なう。また文書作成においては 色々なケースに対応出来るように技能の習得をする。</p>				
授業の準備 について	<p>しっかり復習して下さい。</p>				
授業内容					
1	コンピュータの仕組み				
2	ハードウェア・ソフトウェアについて				
3	種々装置について				
4	ファイルとフォルダの操作				
5	OSの各種機能				
6	インターネットの概要				
7	情報モラルについて				
8	情報セキュリティについて				
9	まとめ				
10	文書作成Ⅰ（フォントについて）				
11	文書作成Ⅱ（基本機能について）				
12	文書作成Ⅲ（表の応用——計算をする——）				
13	文書作成Ⅳ（表の応用——地図を描く——）				
14	文書作成Ⅴ（ペイントの利用）				
15	全体のまとめ				
教科書	授業中にオリジナルプリントを配布する。				
評価方法	課題50% 試験50%				
特記事項					

科目名	キャリアデザイン		担当者	北川、北脇、小林、平	
コース・学年	1年	必・選	必	期間・単位数	前期・1
授業の目標	<p>この授業は、皆さんの2年後をどのように考えるかの基礎段階を形作ることが目的です。 ①自分の現状はどうかを把握する、②周りの人との関わりの中で自分の考えを相対化し、自らが社会の中で何に役立てるかを考え、③経験者の体験談や意見などを参考にしながら自分のこれからの将来を設計していく。この三つの段階を踏みながら、社会生活に最低限必要なマナーを段階的に身につけていきます。 また、この授業を通して、自分の過去、現在、未来をおぼろげながらも言葉によって明確にし、自分にとって何が大切なのか、自身の価値観を把握しながら、人生設計の素案を考えていきましょう。</p>				
授業の準備について	学生生活の充実をはかるとともに、日頃から将来を考えるヒントを得るよう努めましょう。				
授業内容					
1	スタートにあたってーオリエンテーションー (高校生と大学生の違い、マナー・メールのエチケット)				
2	学生生活を考える①ー学生生活を充実させるためにー (アサーション、グループワーク)				
3	学生生活を考える②ー講演を聴いてー (高校生と大学生の違いについてグループでシェアー・グループごとの発表)				
4	自分を知る①ー社会人基礎力についてー				
5	自分を知る②ー自分の強みって？ー				
6	自分を知る③ーコラージュに挑戦ー (導入と作成)				
7	自分を知る④ーコラージュを通してー (グループでシェアー)				
8	自分を知る⑤ー自己分析シートの作成ー ワンポイント・マナー講座				
9	自分を知る⑥ーグループ・ディスカッションー				
10	マナー講座				
11	卒業生の体験談①ー就職・進学・留学それぞれー				
12	卒業生の体験談②ー就職・進学・留学それぞれー				
13	グループ発表ー授業での気づきを話し合い、プレゼンテーションするー				
14	将来をデザインー将来について考えよう (人生設計)ー				
15	進路ガイダンスー進路について考えようー				
教科書	なし				
評価方法	課題 70%および授業への参加度 30%の総合評価。				
特記事項					